



「食」と「農」を専門とする東京農業大学の資源を活用して 子どもたちの「冒険心」を育成する。

東京農業大学稲花小学校

2019年に東京都世田谷区に新設された東京農業大学稲花小学校。この春3期生を迎え、児童数は3学年216人となりました。農大稲花小の特徴と、コロナ禍における小学校の近況について、夏秋啓子初代校長にお話しを伺いました。



なつあき けいこ
夏秋啓子 校長

開校から2年が過ぎて

早いもので、東京農業大学稲花小学校の開校から2年の歳月が過ぎました。その半分以上が新型コロナ禍の中、臨時休校や、感染防止策をとりながらの日々ですので、軌道に乗ったと言えるかどうか、なかなか判別が難しいところではあります。

とはいえ、6学年分の教室が設けられた校舎内に、まだ2学年分の児童しか在籍していなかった状況は、三密を避けながら、できるだけ計画通りの学びを実施しようとするには、恵まれていたと考えるべきでしょう。稲刈りや、大学キャンパスでの生物観察といった校外実習も、無事に実施す

ることができました。それらも、子どもたちや保護者、関係者の皆様のご協力があって成り立っています。この場を借りて、改めて御礼申し上げたいと思います。

教育理念の実現のために

本校が大切にしている教育理念「冒険心の育成」は、東京農業大学創設者である、榎本武揚公の言葉「冒険は最良の師である」に基づいています。この「冒険」とは、初めてのこと、難しいことに対し、強い心と身体、そして様々な知識を準備して臨むことです。子どもたちが将来、社会で生きていく力、活躍できる力を養っていく、その基礎を養うことが大切だと考えています。



- A/近隣の畑でのミニトマトの収穫作業
- B/広々とした水田で手植えを体験
- C/厚木キャンパスでの馬との触れ合い
- D/「食と農」の博物館の熱帯温室
- E/南極から届いた水を観察

また、教育理念が形だけのものにならないように「冒険心」をより具体的に、①感性、②探究心、③向上心、④コミュニケーション力、⑤体力の「3つの心と2つの力」に分け、その育成を教育方針としています。そして、これらをさらに「10の能力」に細分化。各科目の授業においては、その科目の知識・技能だけでなく、この「10の能力」を児童が習得していくことを前提として、カリキュラムを作っています。

教育指標とする「10の能力」

- ①興味・関心 ②創造力 ③問題解決力
- ④習得力 ⑤主体性 ⑥目標設定力
- ⑦発信力 ⑧傾聴力 ⑨持続力 ⑩自律力

体験重視のカリキュラム

そんな本校のカリキュラムは、その特徴として、東京農業大学の資源も活用した、「生き物」や「食」に関する体験学習を重視している点が挙げられます。この2年間、ヨーグルト飲料づくりや木材の加工体験、「食と農」の博物館の見学、厚木キャンパスでの動植物の観察、横浜市青葉区での田植えや稲刈りなど、数多くの実習を、大学教授や学生のサポートを受けながら、実施することができました。今後学年が進むと、富士農場や北海道オホーツクキャンパス、宮古亜熱帯農場への訪問も予定しています。ただ新鮮な体験に触れるだけでなく、子どもたちが主体的に関わり、「なぜ!?

うして!?!と深く考えることを大切に、「10の能力」を育む重要な機会と位置付けています。

また、英語も授業として、1年生から毎日45分行っています。「言葉」は「冒険心」のフィールドを広げるために不可欠なもの。グローバル化が進むなか、「英語」は子どもたちにとって将来重要なツールになります。カリキュラムを順調にこなし、授業以外でも、外国人講師と元気に英語であいさつしたり、遊んだりする子どもたちの姿に、頼もしさを感じます。

ライフスタイルの変化を意識

小学校を新しく開設する際に強く意識したことは、小学生の保護者層のライフスタイルです。女性の社会進出が進み、フルタイムでお仕事をされているお母様も大幅に増えています。せっかく本校の教育理念や方針に賛同いただいても、ご家庭の生活環境を理由に本校を選択できない状況となるのは損失と考え、いくつかの学校運営に反映しました。

その一つが「アフタースクールの併設」です。特定非営利活動法人「放課後NPOアフタースクール」に委託する形で、校内を活用した運営をしていただいています。夕方は18時30分まで、友だち同士で遊ぶですぐだけでなく、スポーツや音楽などの「プログラム」も実施されています。東京農業大学や東京農業大学第一高等学校の教職員、学生・生徒と連携した企画もあり、

「東京農大らしさ」のあるアフタースクールを運営していただいています。

もう一つは「毎日の給食」です。栄養科学科を擁する東京農業大学の名を冠した小学校として、本校では給食を「食育の時間」と位置付け、毎日、校内の給食室で調理した温かい給食を提供しています。忙しいご家庭にも、毎日充実した給食があることをメリットと考えていただいているようです。

「オンライン」という恩恵

この1年間、感染防止策を取りながらの学校生活は、教職員や子どもたちに決して小さくない負担をかけ続けています。そんな中、オンラインツールの活用は、大きな成果物の1つと言えるでしょうか。

休校中も、教材のWeb配信、手探りながらオンライン学級会や英語の授業を行い、再開後は保護者面談や授業参観もオンラインで実施すると、「職場からも観られるから便利」「子どもの素の様子が分かる」といった好意的な声が保護者より数多く寄せられました。

また、同じくオンラインで実施した入学試験の面談も、家庭の雰囲気が分かりやすく、受験生もリラックスした様子が窺えるなど、想定以上のメリットを感じました。

カリキュラムや教育方法もまだ改善の余地が多数ある本校です。揺れ動く世の中の状況を見極めつつ、柔軟な視点を大切に、全力で進んでいきたいと思っています。